



一般社団法人

全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
 発行人 山田 博章 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org

会報

No.95



一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 山田 博章

「アフターコロナ」に於ける PTA活動の再始動

日頃はPTA活動に際しまして、ご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、さる六月に行われました定時総会並びに理事会に於きまして、令和四年度の会長に選任されました「山田」と申します。何卒宜しくお願い申し上げます。

一昨年の年明けから徐々に広まってきた「コロナウイルス感染症」という得体のしれないウイルスに振り回され、「緊急事態宣言」や「三密」等の言葉に翻弄されたこの約二年半であったのではないのでしょうか。

その間、私の前任である泉前会長に於かれましては、本当に前例の無い、真つ暗闇のような本会の運営の中で、総会に於ける書面決議や、理事会、各委員会、そして全国の会長や事務局長が一堂に会する研修会や連絡会のオンラインによるリモー

ト会議等、暗中模索、獅子奮闘の二年間であったであろうと心中お察し申し上げます。心より敬意を表したいと思います。

また「全国高等学校PTA連合会大会」に於きまして、三年前の「第六十九回、京都大会」までは何の懸念も無く、全国から約一万人もの会員の皆様に参加をしていたのだき、盛大に開催されておりました。しかしながら「第七十回、島根大会」の開催に於いては、一昨

年は延期、そして昨年はリアル参加と映像配信によるハイブリッド形式の開催を予定していたにも拘わらず、直前になり見舞われたコロナウイルスの第六波の直撃を受け、島根県内の会員の皆様ですらも参加できないという状況の中、せっかく準備した会場もほとんど無観客という大変残念な大会になってしまい、島根県の実行委員会の皆様の

無念も計り知れなかった事であろうと思います。

そして今年度、万難を排し「第七十一回、石川大会」が無事にリアル参加と映像配信によるハイブリッド形式により開催され、全国から約五千人のリアルの参加者、そして約千校のオンライン参加をしていただき、久しぶりに全国のPTA会員の皆様が、リアルに集まられたという感動を身に染みて味わうことが出来ました。

これも偏に、石川県の大会実行委員会の皆様方のご苦勞の賜物であると、心より感謝を申し上げます。

そして、各地区で行われます、「地区大会」に於きましても、私が会長に就任して以来、「東北地区」「近畿地区」「中国・四国地区」とリアルに集まれる大会が開催され、これらに於きましても、オンラインの画面だけで

は味わえない、交流・親交を深めることができた事に、改めて感動を覚えることができました。

しかしながら、私たち大人は元の状態とまでは行かないまでも、徐々に以前の状態に近付きつつはあるものの、生徒たちにはまだまだ程遠いものがあるのではないのでしょうか。

先日テレビである方が言っていました、
「今、一番して欲しい事は何か?」との問いに対して「学生たちに、この失われた二年半を返してあげたい!」という答えでした。

このコロナ禍に突入して以来、卒業式や入学式、修学旅行に文化祭や体育祭等々、生徒たちにとって、本当に楽しみなイベントやクラブ活動等が悉く縮小あるいは中止となり、友人との楽しい語らいも制限され、実に可哀想な学校生活であった事であろうと思ひ、残念でなりません。

私個人のPTA活動の原点は「子供たちの笑顔」です。

今号の主な内容

CONTENTS

会長挨拶	1～2頁
第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会報告	2～7頁
地区トピックス	8～14頁
東北地区／東京地区／東海地区／北信越地区／近畿地区／九州地区	

第72回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会(ご案内)	15頁
賠償責任補償制度のお知らせ	16頁

子供たちの笑顔が見たくて、一生懸命この活動をしてきました。でも、その為には、その活動をしている私たち保護者が「笑顔」でなくてはなりません。

「厭々」活動をするのではなく、「折角、子供たちの為に活動をするのなら楽しくしよう！」その為には無理やりに活動に参加をさせるのではなく、「できる人が」「できる時に」「できる範囲で」という方針で活動をしてきました。楽しい活動をし、その楽しそうな活動をしているのを見ていると、自然と人は集まってくるものであり、厭々して、辛そうな活動をしている所には人は集まっては来ないと思います。

しかしながら、世の中は目まぐるしい速さで変化をしているのも事実であり、私たちのPTA活動もその変化に対応・順応をしていかないといけない端境期に差し掛かっているのではないのでしょうか？

とは言え、いつの時代も保護者の子供に対する

愛情というものは変わっていないと思いますし、子ども達や学校にとってもPTA活動というものは切っても切れないような存在であると確信をしております。

そのような中に於いて、常にベースにあるのは「子供たちの為」。この考えにブレが無ければ、私たちの活動は存在し続けると考えます。

私は、生まれ育った和歌山の「和」という文字が大変気に入っております。

「わする」とも読めるし「なごむ」とも読める。

この「和」の字の元に、子供たちが安心して安全な学校生活を送る事ができ、将来の夢に向かって羽ばたけるようにサポートをして行くのが私たちの使命であると思っておりますが、私一人の活動ではどうしようもありません。PTA会員の皆様方のお力添えを頂きながら活動をしてまいりたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



第71回全国高等学校PTA連合会大会

石川大会

『輝く未来への礎
～親から始める新時代の教育～』

二〇二二年八月二十五日(木)・二十六日(金)

を振り返って

第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会は『輝く未来への礎～親から始める新時代の教育～』をテーマに、8月25日(木)、26日(金)の二日間にわたって開催され、会場となったいわしかわ総合スポーツセンターと石川県産業展示館4号館には全国から4,695名が参加しました。参加者が一堂に会する全国大会は3年ぶりとなり、新型コロナウイルス第7波が収束しない中、感染防止を最優先に会場収容率50%、検温、消毒などの対策が施され、開会式、記念講演、閉会式をこなす配信するなど、全国大会としては初めてハイブリッドでの開催となりました。

1日目開会式後の分科会では4分野(家庭教育・学校教育・キャリアデザイン・進路選択)において「新時代」を統一

キーワードとした新しい価値観について問題提起され、参加者の意見・質問・アンケートをリアルタイムに集約、共有する手法としてスマホアプリを活用するなど、新時代に相応しい分科会モデルが紹介されました。

2日目記念講演はファミリーマート顧問(元社長)で石川県出身の澤田貴司氏が「やりたいことをやる」と題し、高校卒業後、予備校を経て上智大学に進学し、伊藤忠入社、コンサル会社起業、ユニクロ、ファミリーマートまでの紆余曲折のビジネスマン人生から学んだことを熱く語られ、参加者はユーモアを交えた飾らない口調と興味深い内容に引き込まれました。閉会式では次期開催地の宮城県で再会することを誓い、石川大会は無事、成功裏に閉幕しました。

【開会式】 8月25日(木)

13時30分～14時30分

会場…いしかわ総合ス

ポーツセンター

メインアリーナ

(サブアリーナ・

石川県産業展示

館4号館へ同時

映像配信)

◆山田博章全国高P連会
長式辞(抜粋)

前回の島根大会では1年順延してもリアル開催は叶わなかった。今年は万難を排しての石川大会であり、関係各位の感慨もひとしおではないか。保護者と教員は子どもたちの自立と幸福という願いを同じくする同士だ。両者が同じベクトルで手を携え、子どもたちの自立支援を目標に活動していきたい。石川の地から発信されたテーマと志が心に深く刻まれ、忘れたい印象を残してくれることを確信している。

◆粟田真人実行委員長挨拶(抜粋)

コロナ禍にもかかわらず、多くの皆様にお越しいただき感謝したい。オンラインではなくリアルに一堂に会することの素晴らしいことや、私たちが4年間準備してきたこの大会で多くの学びと気づきを持ち帰っていただければ幸いである。

▶栗田 真人 実行委員長



◆来賓祝辞

ご来賓を代表し、3名の方から祝辞をいただいた。



▶築 和生 文部科学副大臣
(ビデオメッセージ)



▶馳 浩 石川県知事



▶村山 卓 金沢市長

◆表彰式

令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰は文部科学大臣から29団体が、全国高等学校PTA連合会会長表彰は個人72名、



▶役員等表彰

団体77、役員等55名が山田会長より表彰されました。受賞者を代表して泉満氏(前全国高P連会長)が謝辞を述べ、前年度の全国大会を主管した島根大会実行委員会会長の大屋光宏氏、島根県高P連に特別感謝状が贈られました。



▶泉 満 前全国高P連会長

【分科会】 8月25日(木)
14時40分～17時

第1分科会

「新時代の家庭教育」
今伸ばすべき本当に必要な力」

参加者2,226名

場所…いしかわ総合ス

ポーツセンター

メインアリーナ

◆内容…家庭はすべての教育の原点だが、それぞれの価値観やライフスタイルの多様化にに応じて家庭での子育ても多様化している。家庭での子育

てはこうあるべきといった正解はないが、どんな子育てが子どもの自立に有効なのか、そして身に付けておくべき本当に必要な力について二人の講師の講演をもとに質疑応答を行った。



▶慶應義塾大学教授
中室 牧子氏



▶花まる学習会代表
高濱 正伸氏

▶質疑応答



第2分科会

「新時代の学校教育」
学習意欲を高める個別最適化、協働的な学び」

参加者1,626名

場所…石川県産業展示

館4号館

◆内容…学校教育に対し、一斉授業の限界、教師不足、科学技術や情報化への遅れ等が指摘されている。日本経済を回復・



▶経済産業省産業資金課長
浅野 大介氏

発展させるため経済産業省が提唱するこれからの学校教育である「未来の教室」を切り口に、文部科学省はそれをどう考え、どんな対策をとるのかについて二人の講師の講演をもとにパネルディスカッションを行った。



▶内閣府審議官
合田 哲雄氏



▶パネルディスカッション

第3分科会

「新時代のキャリアデザイン」ローカルキャリアが育む未来の働き方・生き方」

参加者705名

場所…いしかわ総合スポーツセンター

サブアリーナ

◆内容…ローカルキャリアとは、地域に関わりながら働き、地域という生活者に近いところで生活者と共生関係を持ちながら、地域の人や資源を生かし共創すること。個人の価値観の多様化を背景に都市部一極集中から脱する新時代のキャリアデザインについて3人の講師の講演をもとにパネルディスカッションを行った。



▶青森大学准教授
石井 重成氏



▶(財)地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事 岩本 悠氏



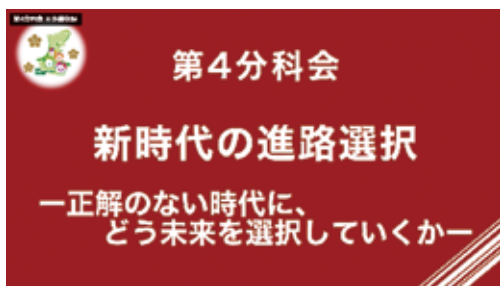
▶リクルートワークス研究所
研究員 古屋 星斗氏

第4分科会

「新時代の進路選択」正解のない時代に、どう未来を選択していくか」(オンライン録画配信)

コロナでの生活変容を筆頭に、ますます先行き不透明な時代となっている。しかし、価値観の変化・選択肢の多様化をポジティブに捉えると「自分のやりたいこと」を突き詰めていける時代ともいえる。正解のない時代ゆえの進路選択について視点を深めるため、二人

の講師の講演を配信した。



▶タイトル配信画面



▶スタディサプリ教育AI研究所
所長 小宮山 利恵子氏



▶リクルート「キャリアガイダンス」
編集長 赤土 豪一氏

【記念講演】8月26日(金)

9時30分～11時

会場…いしかわ総合スポーツセンター

メインアリーナ

(サブアリーナへ同時映像配信)

講師…ファミリーマー

ト顧問(元社長)

澤田 貴司氏

(石川県出身)

演題…「やりたいことをやる」

澤田 貴司氏は生い立ちから現在までを時系列で、伊藤忠、経営コンサル会社起業、ユニクロ、ファミリーマートを渡り歩いてきた企業人としての自身の経験を踏まえ、ユーモアを交えながら飾らない口調で熱く語られました。澤田氏が20代のころ、長く教職に携わってこられたお父様が不慮の事故で亡くなられ、喪主を務めることになったとき、たいへん多くの方が



▶澤田 貴司氏

からお父様への感謝の言葉をいただいたことに大変なショックを受け、このときに「自分も一人でも多くの人を物心両面で幸せにしたい。自分のため(利己)ではなく、人のため(利他)に尽くそう。」と決心されたそうです。そして選択を迫られたとき、「誰が正しいか」ではなく、「何が正しいか」で判断すべきだと強調され、企業トップは「組織はリーダーで99・9%決まる」ことを肝に銘じ、リーダーが責任を負って、やりたいことを宣言し、自身の逃げ場を無くし、皆が納得して努力する環境を作り出すことで企業や社員の自己成長を産むことができると締めくくられました。70分の



▶講演後の花束贈呈

▶全国高P連旗の返還



講演でしたが、上着を脱がれ汗を拭きながらの澤田氏の熱い語りに参加者は時間を忘れるほど引き込まれ、多くの学びが得られた記念講演となりました。

【閉会式】8月26日(金)
11時15分～11時55分
会場…いしかわ総合スポーツセンター
メインアリーナ
(サブアリーナへ同時映像配信)
大会会長の山田博章全国高P連会長が「コロナ禍で石川大会開催に至るまでには紆余曲折があったと思う。しかし、大会を盛会・成功裏に終えられるのは、これまで長年にわたり準備し、勇気をもって開催を決断してい

た。いただいた石川大会実行委員会及び石川県高P連のお陰であり、心より感謝申し上げます。参加者の皆様には石川大会で得た多くの学びをお持ち帰りいただき、それぞれのPTAで共有し、これからの活動の充実に活かして欲しい。」と挨拶しました。

▶全国高P連旗の授与



続いて全国高P連旗が粟田真人実行委員長から山田博章全国高P連会長へ返還され、山田会長から次期開催地である宮城県仙台市に活動できるきっかけとなる大会にしたいとの願いがあった。コロナはすぐに収束しないだろうが、石川大会にご参加いただいた皆様がそれぞれの地元で今後のPTA活動の礎として、ご尽力いただければ有難く思う。」と挨拶し、石川大会は閉幕しました。

宮城県視察団約50名が「来年の夏は宮城県仙台市でお会いしましょう。」と意気投合したパフォーマンスで参加を呼びかけました。

終わりに粟田真人石川大会実行委員長が「コロナ禍で全国大会を開催することは世間的にはまだ抵抗感が強く、そんな中で開催に踏み切ったのは社会の閉塞感を払拭し、全国各地のPTAが元通りに活動できるきっかけとなる大会にしたいとの願いがあった。コロナはすぐに収束しないだろうが、石川大会にご参加いただいた皆様がそれぞれの地元で今後のPTA活動の礎として、ご尽力いただければ有難く思う。」と挨拶し、石川大会は閉幕しました。

+++



▲次期開催地 宮城大会PR

輝く未来への礎

いしづえ

親から始める新時代の教育

第71回全国高等学校PTA連合会大会

2022石川大会

日程 2022年 8/25(木)～26(金)

会場 いしかわ総合スポーツセンター、石川県産業展示館

主催/全国高等学校PTA連合会 主協/石川県高等学校PTA連合会

▶石川大会ポスター

Attraction by High school students

〔高校生アトラクション〕
両日ともオープニングで高校生アトラクションが大会を大いに盛り上げました。



▲石川県立金沢桜丘高校箏曲部



▲遊学館高校バトントワリング部



▲石川県立小松明峰高校吹奏楽部



▲石川県立金沢二水高校合唱部

今、わが国は安全保障・経済・社会保障といった国政の重要課題において

3年ぶりに会場に一堂に会しての全国大会開催が実現できたことを踏まえ、PTA活動や全国大会のことについて感じたことを記します。

石川県大会実行委員会一同の一番の喜びです。

第71回全国高等学校PTA連合会大会2022石川大会にご参加いただいた、全国のPTA会員の皆様へ、コロナ禍第7波の中、万難を排して石川県に起こしただいたこと、また、残念ながら来県いただけなくてもオンラインで視聴いただけたこと、本当にありがとうございました。



石川大会実行委員長 栗田真人

石川大会を終えて

様々な面で歴史的分岐点に立っていると感じます。このことは教育の分野においても同じです。本大会の4つの分科会では「新時代」というキーワードで学校教育・家庭教育・キャリアデザイン・進路選択の各分野について講演者・パネリストの方々からたくさんのご報告・ご提案をいただきました。総じていえることは、特に私たち保護者の年代で受けてきた教育から大きく価値観を変える必要があること、そして他者との違いをおそれずに、自らが積極的に考え、発言し、主体的に決断する人材を教育していくという大きな方向性に、保護者自身が真剣に向き合い、自分たちの子、そして教育現場に向き合えるかという問題提起であったように思います。このように文章にしてみても当たり前のように感じられますが、いざ実践しようとするとなかなか

か手強いものであると思います。

澤田貴司様の記念講演においては、経済人としてのダイナミックな活動のご経験を話いただき、これからの人生を考える上で、小さくともまっている場合ではないという危機感にも似た実感を私個人は受けました。

本大会において参加・視聴いただいた皆様が、それぞれの価値観、あるいはこれからの教育、あるいは自らの人生に何らかの変化をもたらす気づきを得ていただき、何かを新しく始めるきっかけとしていただいたとしたら、企画実行にあたった立場としてはそれ以上のありがたいことはありません。

ウィズコロナの時代になり、数千人がこのように一堂に会して行うシンポジウムや大会の開催意義も益々問われることになりました。いかに簡単にネット上で会議や講演が可能であるとしても、時間と費用をかけてわざわざ移動し一堂に会していただくことにはやはり意義があります。会

場の熱気、画面ではなく会場で聞く際の心への響き方の違いもあるでしょう。アトラクションなどは生で体験していただく迫力は格段に違うものがあると思います。現役高校生が晴れ舞台で一生懸命に取り組んでいる姿を目の当たりにすることは、とても感動するものだとも改めて実感しました。

各高単Pあるいは県や地区の地域ごとのPTA会員が、丸2日間という長時間、行動を共にしていただくという時間は、地元においてはなかなか持つことのできない貴重な時間であると思います。旅程や食事中など公式の会議では決して交わせない会話を通じて、さらに親近感が強くなり、個人の貴重な経験にもなり、各組織全体の活性化にもつながるのではないのでしょうか。

こういった企画書には現れない重要な価値を再認識できたことが3年ぶりのリアル全国大会を開催してみても一番の実感であり、今後の全国大会開催に関する重要な引継事項になったように感じ

ています。

最後になりましたが、本大会の開催にご協力をいただいた講演者・パネリスト・司会の方々など登壇者の皆様、ご祝辞をいただいた築文部科学副大臣様、馳石川県知事様、村山金沢市長様そしてご来賓の皆様、主催者としてご協力をいただいた全国高等学校PTA連合会山田博章会長をはじめとする役員・事務局職員の皆様、そして運営・設営に多大な協力をいただいた株式会社JTB様、株式会社金沢舞台様、能登印刷株式会社様、多くの支援をいただいた自治体および協賛企業の皆様など、関係していただいた全ての皆様に感謝を申し上げます。無事成功裡に本大会を開催することができました。本当にありがとうございました。

そして、準備および大会当日に汗を流していただいた石川県高等学校PTA連合会加盟校会員の皆様、実行委員会役員、実行委員会事務局職員、同士の皆様、本当にお疲れ様でした。このねぎらいの言葉を締めとして、

実行委員長の報告とさせていただきます。

いつの日かコロナ禍を克服し遠慮なく笑い合える明るい社会が再び到来することを祈念して。



▲石川大会実行委員会

71

▶石川大会シンボルマーク



地区Topics

東北地区

盛岡大会報告

岩手県高等学校PTA連合会

第71回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会を、7月1日に盛岡市民文化ホールを会場に開催いたしました。「7月1日」に「第71回大会」開催というのは大変憶えやすい日程でしたが、大会のそのものも皆様の記憶に残るものになるようにと、大柏良大会会長・志田順悦実行委員長を始めとする大会関係者一同、企画・運営にあたりました。開会行事には、全国高P連の山田博章会長も参加し、ご挨拶をいただきました。生活の全てに新型コロナウイルス感染症の影響を受けざるを得ない昨今の状況の中で、レセプションを中止するなど一部の行事を変更したものの、無事に大会を開催でき、多くの皆様のご参加を頂いたことは、開催県である私どもにとつて大きな喜びとなりました。皆様に御礼を申し上げます。

大会テーマを、「『えん』 応えよう、援けよう、団まろう！子どもたちの未来のために」とし、子どもたちの一番の応援団であり続けようというコンセプトで企画した今大会でした。

テーマにちなみ、県内各校で活躍する応援団の中から、盛岡第二高校、花巻北高校、不来方高校の三校が、映像出演してくれました。凛とした女子応援団、伝統のパンカラ応援団、華やかなチアリーダーと、三校それぞれの校風を活かした個性的な応援を見ると、活動している応援団を応援しなくなりませんでした。

高校生の活躍もご覧頂きました。盛岡第二高校のなぎなた部の演舞は、軽快な音楽に乗せて武道の心を美しく体現し、「メン！コテ！スネ！ドウ！」の裂帛の発声が会場に響きました。盛岡第一高校の吹奏楽

部は、保護者に「子どもたちとの共通の話題作り」とを、息のあった演奏で今流行りのたくさんヒット曲を教えてくれました。盛岡商業高校のさんさ踊り実行委員会は、盛岡の夏の風物詩である「さんさ踊り」を流麗に、力強く披露してくれました。今年は3年ぶりにお祭りも開催されました。皆様もぜひ一度盛岡にいらして、ご覧になってください。

研究協議では「新しい生活様式における持続可能なPTA活動とは」をテーマとして、各県の代表によるパネルディスカッションを行い、多面的な視点からPTA活動を考えました。最後に、コーディネーターを担当した清水成樹東北高P連顧問が、「PTAは生徒を支えるツールだと考え、地域や時代に合わせ変化していったほしい。それが持続可能なP

TA活動につながると思う。」とまとめました。

また、記念講演では『南部美人の挑戦』と地域を照らす光になるためにと題して、南部美人5代目蔵元の久慈浩介さんが、フードダイバーシティへの取り組みやコロナ禍における消費アルコールの生産に触れ、「今、世界が求めているのはオンリーワンの価値だ。それがどれだけ高いかで選ばれる存在になれる。このことは子どもたちが未来を生きる上でも、大きなヒントになるのではないか。」と話しました。私たちが果たすべき役割を自覚的に捉えることの大切さを改めて学びました。盛岡大会にご参加の皆様を送ったエールが届いたことと思います。

東北地区各県事務局はじめ、東北地区PTA会員並びに各関係機関の皆様のご多大なるご支援、ご協力に感謝申し上げます。ご報告いたします。来年度は福島で盛大に通常開催できることを心から祈っております。



▲盛商さんと実行委員会



▲パネルディスカッション



▲久慈浩介氏による講演

地区Topics

東京地区

東京都公立高等学校PTA連合会

全都会長会報告

東京都公立高等学校PTA連合会では2022年10月26日(水)、荻窪地域センターにて第2回全都会長会が行われました。平日19時過ぎから対面式での開催でしたが、27名(内訳…各校現役PTAから21名、評議員2名、役員4名、事務局1名)が出席しました。プログラムは、まず

【向丘高校PTA会長上ノ町さんによる講演「新しいPTAの作り方」】

として、保護者が進んでPTA活動に参加したくなるような組織作りのために、向丘高校が取り組んでいる改革の内容についてお話しいただきました。

主な改革の内容として、

1) 本部、委員会制度を廃止する

2) 活動ごとのエントリ制にする

↓「チーム向丘」メン

バーに登録し、メンバーの中からイベントごとチームを組んでエントリする。この2点のご説明がありました。

合言葉は「できる時に、できる人が、できる事を」。

これらの改革の結果、活動の縛りや期限(任期)がなくなり、現役68名、OB13名の「チーム向丘」ができたそうです。そうして自発的に参加したメンバーはPTA活動にストレスなく参加でき、活動のメリットや楽しさを十分に感じられるようになったため、イベントごとの多くのメンバーが手をあげ、新たなチーム参加希望者も増えているとのことでした。

また、その改革にあわせて、

3) 会長と会計をそれぞれ3人制にし、上下関係なく決定権を持つようにする

4) その他の「役職」を廃止する

5) ボランティアではなく報奨金制度を取り入れる

という変革も行ったそうです。こちらは「チーム向丘」の運営にかかる部分になり、保護者皆が公平に役割を引き受け、上下関係のない組織にすることで風通しの良いPTA活動につながっているそうです。

参加した他校の会長からも「参考にしたい」「詳しいやり方を聞きたい」という声を何件も聞き、講演は大盛況でした。後日譚にはなりますが、現在でも上ノ町さんの元には個別に話を聞きたい、という他校PTAの方からの問い合わせが続々と上がっております。

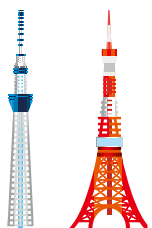
講演後は、参加者を5グループに分けての「グループディスカッション」を行いました。

ディスカッションの

テーマは2つで、テーマ①は「役員選考」、テーマ②は「現在の困りごと」。各グループでは初顔合わせになる方がほとんどで、各校のPTAそれぞれの事情も様々でしたが、悩み事の多くが共通しており各テーマで熱い議論が交わされていました。

コロナ禍が始まってから全都会長会はオンラインでの開催でしたが、今回対面式を復活させたことは、コミュニケーションが取りやすかったと概ね好評をいただきました。「連合会」として各校の横の繋がりも活用できたことと思います。

今後はオンラインの便利さと対面式で取れるコミュニケーションの重要性を両立させて、連合会として「参加メンバー相互の連携が取りやすく、かつ負担の少ない活動」をサポートして参ります。



▲グループディスカッションの様子



▲司会の笹原さん(副会長)

地区Topics

東海地区

岐阜県立加納高等学校PTA連合会

ウィズコロナでの活動

〇はじめに

東海地区では毎年6月に4県の持ち回りで、東海地区高P連の総会と大会を開催しています。新型コロナウイルスの影響で令和2年度「三重大会」、3年度「静岡大会」とも総会は書面開催で大会は中止となりました。令和4年度の「愛知大会」は、開催日の約1か月前の時点で1県でも「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発令されている場合には参集開催を中止するという判断基準で、オンライン開催の準備もしていました。各学校1名という参加人数制限をしながら無事に参集開催をすることができました。

また、岐阜県高等学校PTA連合会においては、5月末の定期総会はオンライン開催としましたが、10月末のPTフォーラム大会は例年より100名ほど少ない30名の参加人数でしたが、広い

会場で感染対策を徹底しながら直接参集する形で開催をしました。その大会で発表があった取組の一部を紹介します。

1 岐阜県立羽島特別支援学校PTA

羽島特別支援学校PTAでは、PTA活動の見直しをしていく中で、災害に対する不安の聲が上が。令和元年度から防災の取組を始めようということになりました。そこで保護者の方の防災意識や知り得たい情報を得るために、アンケートを取りその結果を学校祭の折に体育館に掲示しました。



▲非常食の試食

また、学校と連携して、高等部生徒が防災学習の際に段ボールで作った生活用品（ベッドやトイレ、テーブルなど）や、ハザードマップを展示したり、羽島市や企業より提供いただいた非常食の試食コーナーも実施しました。

学校全体の防災の取組としては、命を守る訓練を年2回、シエイクアウト訓練を月1回、備蓄品の確認を年2回行っているだけでなく、非常変災時を想定した「引き渡し訓練」も実施しています。

その際、保護者だけでなく、迎えが可能な人すべてがあらかじめ家族カードを持つていたので、長時間子どもを待たせることなく、引き渡しも確実に

に行うことができます。家族カードの存在はとても有効なものとなっています。

2 岐阜県立加納高等学校PTA

加納高等学校PTAでは、生徒主体となつて生徒自身の自己肯定感を高める活動を支えています。きたいと考えています。

いちばん大事な子どもたちの将来の人生をより豊かにするために、先生や保護者のほか地域の皆さまと協力し、生徒一人ひとりが充実した高校生活を過ごせるよう、それぞれの得意分野で力を発揮し、足りない部分を補いながら「チーム加納」としてPTA活動をしています。

例えば、以下の事例が紹介されました。

①「スマホ教室」の開催支援

高齢者の方々のスマホ活用に向けたリテラシーとモチベーションの向上を図るとともに、講師となる生徒自身の自己肯定感を高めることを目的として実施しています。

②「制服リサイクル」制服自由化により使用頻度が低下した制服につ

いて、生徒会と協力し活用を図っています。

3 岐阜県立瑞浪高等学校校育友会

瑞浪高等学校校育友会では、学校が取組んでいる「ふるさと教育」の一環として地域と連携した探究活動、地域連携プロジェクトを積極的にサポートしています。また、保護者と教師が子どもの幸せを願い、情報交換や講演など研修の機会を通して、今の教育課題をとりえ、育友会の全会員に対して教育的素材と学習の機会を豊富に用意していきたいと考えています。



▲保護者による就職面接指導

4 岐阜県立斐太高等学校校育友会

ここ数年は新型コロナウイルスウィルス感染症の感染防止の観点から様々な制約の中、学校行事はもとより、育友会の活動が思うように行うことができました。

せんでした。現在ではコロナ前の育友会活動を経験している人材が大変少なくなくなってしまったので、育友会実行委員会では、「今まで通り」を取り戻すのではなく、今の新しい生活様式の中で何ができるのか、どう繋いでいけばよいのかを話し合い、学校と連携して活動しています。

大きな変革期である今を体験している生徒たちには、「今まで通り」を取り戻すのではなく、これから見据えた歴史と伝統を作ってもらいたいと願い育友会活動を進めていきたいと考えています。

〇おわりに

新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの活動ができず、中止や見直しを検討する中で本来に必要な活動とは何かを考える良い機会になりました。今後はウィズコロナの中で効率の良い活動の在り方を各学校で再構築していく必要があります。そのためには、各学校の活動状況等を気軽に情報交換し、交流していくことがとても重要だと考えています。

岐阜県立羽島特別支援学校		
児童生徒家族カード		
学部	年	組
児童生徒名		
引受人	(続柄)	
岐阜県立羽島特別支援学校		

▲家族カード

地区Topics

北信越地区

福井県立若狭東高等学校PTA連合会

福井県立若狭東高等学校の教育とPTA活動

はじめに

北信越地区では毎年7月に5県の持ち回りで、北信越地区高P連研究大会を開催していますが、令和3年度開催予定の全国高等学校PTA連合会大会石川大会が新型コロナウイルスの影響で令和4年度に延期となり、全国と北信越二つの大会が同時開催となりました。

本来ならば、発表を予定（紙上発表を含む）していた4校（勝山高校、福井農林高校、丹生高校、若狭東高校）を紹介するところですが、書面の都合上、令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰被表彰団体である、福井県立若狭東高等学校PTAの取組をご紹介します。

「若狭東高等学校の教育とPTA活動」

1. 学校概要

本校は大正9年に遠敷郡立遠敷農林学校として創立されて以来、100年



「明日の若狭を創るのは君たちだ」をスローガンに、地域を創る人材を育ててき

上にわたり若狭の地元産業を支える優れた人材を輩出してきた伝統ある学校です。創立から幾多の変遷を経て、昭和62年に従来の農業5学科を農学科、農業土木科、生活科に再編し、普通科、工業科を加えた若狭東高等学校となりました。

平成5年には社会情勢の変化に対応すべく、農業科を産業技術科、生活科学科の2学科に再編し、普通科、電子機械科、電気科と合わせた5学科となりました。

平成25年には、普通科に変わり商業科が設置され、総合産業高校として新若狭東高校が誕生し、

ました。

令和元年には創立100周年を迎え、記念会館である「ゆずりは会館」が建設されました。現在では、ゆずりは会館を利用して、総合産業高校として特色ある実践的な教育活動が行われています。また、PTA役員会や各委員会などのPTA活動にも使用しています。



▲ゆずりは会館でのイベントの様子

2. 本校の特色

1クラス28名で構成され、1学年6クラスの160名程の中規模校です。農業系学科として生活創造科と地域創造科があり、

工業科である電気・機械科は、電子機械コースと電気コースに分かれています。商業科は、ビジネス情報科が2クラスあります。

学科・コースと学級編成 令和4年度		
学科(定員)	コース	クラス
農	生活創造科(28名)	1
	地域創造科(28名)	1
工	電子機械コース(28名)	1
	電気コース(28名)	1
商	ビジネス情報科(56名)	2

【生活創造科】

農業と家庭科を専門教科とし、農産物の栽培・加工、食生活、衣生活、保育・福祉について学びます。食育を重視し、生徒たちがゆずりは会館で「高校生レストラン」を出店し、薬膳メニューや



▲高校生レストラン

特産品を使った商品を開発・販売することで実践的な力を身に付けます。また、保育実習、介護体験などの校外実習を通して、地域の方との交流を深めています。

【地域創造科】

農業生産・食品・土木・測量などについて学習します。1年生では全員が同じ専門科目を学び、2年生から興味・関心、進路希望に合わせて「食農



▲生産物販売

創造コース」と「地域開発コース」に分かれて、より深く専門科目を学びます。

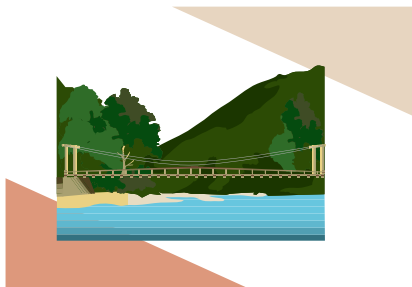
【電気・機械科】

電子機械コースでは溶接、旋盤などの高度加工技術や、機械・電子・情報技術を融合したメカトロニクスの知識と技術を習得します。

電気コースでは「電気のパシヤリスト」を目指し、発電技術からコンピュータ利用まで幅広く学習します。



▲土質実習



【ビジネス情報科】
ビジネスに必要な商業全般の知識・技術、ICT活用能力、トレンドを捉える力、金銭感覚などを養います。また、ビジネスシーンでの礼儀作法も学びます。2年生から興味・関心、進路希望に応じて会計分野、マーケティング分野、情報処理分野を選択することができます。

【総務委員会】
PTA活動の企画、運営、予算の立案・執行などを行います。

（1）組織
本校PTAは年度当初に信任された会長および副会長（4名）と、投票により選出された地区委員が、総務、研修、広報の3委員会に所属します。そして、学校長、教頭およびPTA事務局などの教職員がその活動を補助しています。
昨年度までは、4つの委員会（総務、研修、広報、校外補導）で構成されていましたが、生徒数の減少に伴う地区委員の減少から、委員会の活動を見直し3委員会へと会則の改訂を行いました。



【広報委員会】
年3回、保護者懇談会に合わせて広報誌のPTAだより「ゆずりは」を発行しています。



▲あいさつ運動



▲親の集い（輪投げ）

【研修委員会】
学校祭（彦姫祭）でのPTA企画「親の集い」の計画・運営とあいさつ運動などを行います。
これまで学校祭での親の集いでは、食品提供をしていましたが、コロナ禍であることを配慮し、輪投げに内容を変更し行い、生徒たちから大好評となりました。

（2）PTA年間事業
（令和3年度実績）
4月 地区別委員投票
5月 第一回全委員会（第一回各委員会）
6月 PTA総会（書面決議）
7月 第二回校外補導委員会
8月 県高P連総会
9月 教科書選定・修学旅行業者選定説明会
10月 第二回校外補導委員会
11月 PTAだより「ゆずりは」発行



校外補導（最寄り駅）
9月 あいさつ運動（東小浜駅）
10月 第二回研修委員会（親の集いについて）
11月 彦姫祭「親の集い」PTA企画の輪投げ
12月 PTA役員会
1月 第二回広報委員会
2月 県高P連研究大会
3月 若狭東高校課題研究発表会
4月 保護者懇談会
5月 PTAだより「ゆずりは」発行
6月 第二回総務委員会
7月 PTAだより「ゆずりは」発行
8月 卒業式
9月 令和3年度実績
10月 地区別委員投票
11月 第一回全委員会（第一回各委員会）
12月 PTA総会（書面決議）
1月 県高P連総会
2月 教科書選定・修学旅行業者選定説明会
3月 第二回校外補導委員会
4月 PTAだより「ゆずりは」発行
5月 第二回研修委員会（親の集いについて）
6月 彦姫祭「親の集い」PTA企画の輪投げ
7月 PTA役員会
8月 第二回広報委員会
9月 県高P連研究大会
10月 若狭東高校課題研究発表会
11月 保護者懇談会
12月 PTAだより「ゆずりは」発行
1月 第二回総務委員会
2月 PTAだより「ゆずりは」発行
3月 卒業式
4月 令和3年度実績
5月 地区別委員投票
6月 第一回全委員会（第一回各委員会）
7月 PTA総会（書面決議）
8月 県高P連総会
9月 教科書選定・修学旅行業者選定説明会
10月 第二回校外補導委員会
11月 PTAだより「ゆずりは」発行

委員会にて協議し承認されています。今年度のPTA全委員会には委員の8割以上が出席し、役員選出、事業計画、会計予算など協議していただきました。その後、各委員会に分かれて1年間の活動内容について話し合いを行いました。

4. おわりに
昨年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が制限を余儀なくされました。生徒たちには悲しく悔しい思いをさせてしまいました。本校PTAとしましては、このような状況下で生徒一人一人がより良い学校生活を過ごすために何ができるのかを考えました。そして、今できることに最善を尽くし、生徒たちを全力で支援してきました。

これからも百周年記念会館である「ゆずりは会館」を拠点として、PTA役員、委員、保護者の皆様の声を反映し、先生方と連携しながらPTA活動を盛り上げていきたいと思います。

地区Topics

近畿地区

大阪府立高等学校PTA協議会

「未来創造」

「無限の可能性を持つ子どもたちと
未来へ向かって」

▶大会会長挨拶

7月18日（月）第47回近畿地区高等学校PTA連合会大会大阪大会を「未来創造」をテーマにグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）にて開催いたしました。

本来、令和3年に開催する予定でしたが新型コロナウイルス感染症の影響により、1年延期しどのような開催形式がよいのか？どのような内容がこの時代にマッチしてい

るのか？

何度も議論を重ねながら準備を進め、近畿地区大会初の集会和WE B併用のハイブリッド形式とし、会場出席者993人、WE B視聴117校にご参加いただきました。

開会式では開会宣言に始まり、主催者挨拶、来賓祝辞に続き近畿地区高P連広

報紙コンクール入賞校の表彰式及び本年3月末をもって退任された各府県市高P連会長・事務局長への感謝状と記念品が贈られました。その後、次期開催の滋賀県から挨拶がありました。

記念講演には、東京パラリンピックの閉会式でピアノ演奏を披露された、7本指のピアノリスト西川悟平氏をお迎えし、「夢を心に持ち続けると



◀久米田高ダンス部

誰にでも奇跡は起こると信じています。」をテーマにご講演いただきました。ピアノ演奏と軽快なトークを織り交ぜての講演は、7本の指しか動かないとは思えなかった素晴らしいピアノ演奏に会場は魅了され、トークはアメリカでの体験など多くの面白い内容で飽きることがなく聞き入っている様子



◀東住吉高長唄

でした。大会アンケートでもとても楽しめた・笑いあり涙ありで最後まで惹きつけられた等とても喜んで頂けたご意見が多数ありました。

高校生によるアトラクションでは、日本高校ダンス部選手権で優勝された久米田高校の約60名の「くめだんす」の迫力ある力強いダンスパフォーマンスに会場は圧倒されました。全国唯一の専門学科をもつ東住吉高校の芸能文化科による三味線と長唄の演奏のすばらしさが感動を与え、高校生

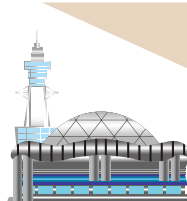


◀物販の様子

の一生懸命披露してくれたパフォーマンスが大会をさらに盛り上げてくれました。

また、大会でこだわったのが物販のコーナーです。「大阪もん」にこだわった商品を多数揃え、農芸高校のレトルトカレー、園芸高校の野菜や花など8店舗が展示され、会場を賑わしていました。

ンの設置や密にならない受付の設置やWE Bで視聴される方への画面の見せ方にも工夫をしました。状況によっては中止も考えられる中、盛会のうちに無事開催できた大阪大会となりました。



地区Topics

九州地区

長崎県公立高等学校PTA連合会

長崎がんばらんば大会

「ともに学び・ともに育むPTA」

3年ぶりとなる九州大会、第66回九州地区高等学校PTA連合会大会「長崎がんばらんば大会」が、「ともに学び・ともに育むPTA」をテーマに、6月16日(木)・6月17日(金)の2日間にわたり、長崎市の出島メッセ長崎を会場に、220名の会員が参加し開催されました。

九州地区では、令和2年度宮崎大会、令和3年度鹿児島大会と、コロナの影響により中止となっていました。今大会は参加人数を制限し、それを補うウェブ配信を行う事により開催することができました。

16日は、九高P連の4委員会、理事会、総会が開催され、久しぶりに直接顔を合わせた会議というところもあり、意見交換も活発に行われ、新年度スタートに向けた充実した話し合いを持つことができました。



分科会

17日は、分科会、アトラクション(映像)、全体会、記念講演が行われました。アーカイブ配信となった第1、第2分科会以外は、会場に参加者を入れて開催され、並行してライブ配信も行うハイブリッド方式で行われました。第1、第2分科会については、誌上発表と事前録画データのアーカイブ配信という形式で行われました。

第1分科会では、「青少年の健全育成とPTA活動」をテーマに、大分県、沖縄県、福岡県、長崎県より、同じく第2分科会では、「進路指導とPTA活動」をテーマに、熊本県、佐賀県、宮崎県、鹿児島県より事例発表がありました。それぞれ各県地域に根ざしたPTA活動についての素晴らしい発表でした。質疑はできませんが、自分のパソコン等でメモをとりながら



全体会



記念講演

の関わり方などを聞くことができ、近い将来、各学校でもeスポーツでできること、そして長崎県の教育委員会の

ら繰り返し見ることもでき、大変研修しやすかったという感想も聞くことができました。

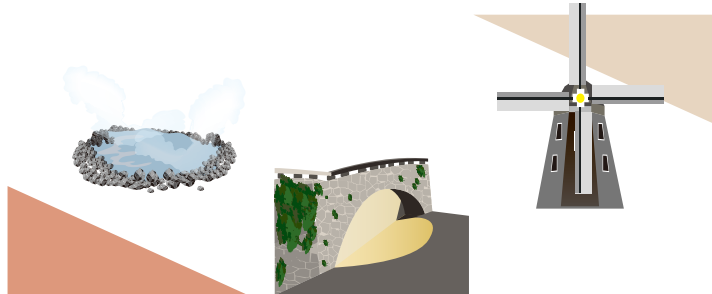
参加者を入れた長崎県企画の第3分科会では、「ICTの活用と展望」～eスポーツと新たな産業～をテーマに、県教委、学校、企業側の代表者3名をパネラーに迎え、今後の学校におけるeスポーツの在り方や今後の展望について、パネルディスカッションを行いました。実際に教育活動の一環として取り組んでいる大村工業高校の話や、企業側から学校へサポートできること、そして長崎県の教育委員会の関わり方などを聞くことができ、近い将来、各学校でもe

スポーツへの対応が必要になったとこのために、とても参考になる内容でした。

記念講演は、ジャパネット高田創業者の高田明氏が「夢持ち続け日々精進」を演題に講演をされました。ご自身の進学や学生時代のお話し、家業であったカメラ店をされていたときのお客様への対応や、ラジオショッピング、そしてテレビショッピングに目を付けて仕事を広げて行かれた時のことなど、今の成功に繋がる基礎が、ここにあったと感心させられるものでした。そして、七十四歳の高田氏がいかかわっている仕事として、長崎に球技専用スタジアムを核にした商業施設、長崎スタジアムシ

ティ建設について熱く語られ、年齢を感じさせずいつまでも夢を追い続けている情熱に、最後まで圧倒される講演でした。

最後に閉会式では、次期開催県の佐賀県連会長から挨拶があり、無事大会を終了することができました。今大会は、ハイブリッド方式や、アーカイブ配信など、これまでにない形式で行われ、これからの大会の開催方法を考えるうえでも、重要な大会となりました。



第72回全国高等学校PTA連合会大会 2023宮城大会案内

「豊かな杜^{もり}につむぐ虹の光」

～ しなやかな強さで生き抜く力 ～

【期 日】 令和5年(2023年)8月24日(木)～25日(金)

【会 場】 全体会(カメイアリーナ仙台) 分科会(仙台市地下鉄沿線6会場)

第1日 8月24日(木)

○教育視察(希望者)

10:00～12:00

東北大学キャンパスツアー

震災遺構見学(仙台市・名取市)

○分科会 6会場(東京エレクトロンホール宮城他)

13:00～ アトラクション(生徒合唱映像放映)

13:30～13:50 開会行事

14:00～15:00 基調講演

15:15～16:30 パネルディスカッション

16:30～ 閉会行事

第2日 8月25日(金)

○全体会 カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)

9:00～ アトラクション

(「白A」によるプロジェクションマッピング)

9:30～10:30 開会行事、表彰式

10:40～11:50 記念講演

12:00～12:30 閉会行事



【分科会】

第1分科会 会場：東京エレクトロンホール宮城 「地域教育」コミュニティスクールとグローバルの光 ～ 地域教育魅力化の取り組み～	第2分科会 会場：カメイアリーナ仙台 「学校教育」ICTで広がるキャリアデザインの光 ～ 多様な挑戦で広がる世界～
第3分科会 会場：トークネットホール仙台 「レジリエンス教育」強く生きるための多様性とコミュニケーションの光 ～ 自己肯定感と逆境から立ち上がる力を育む～	第4分科会 会場：仙台国際センター 「情報交換会」with コロナ post コロナにおけるPTAの光 ～ 皆さんで語り合おう～基調講演後に情報交換会
第5分科会 会場：仙台サンブラザホール 「防災・減災教育」いのちと希望を未来につなぐコミュニティの光 ～ 教訓から自助・共助の力を育む～	第6分科会 会場：東北大川内萩ホール 「主権者教育」シチズンシップ教育が育む新たなデモクラシーの光 ～ 現代的諸課題を乗り越える力を育む～

全国高等学校 PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

年間 400 円 (保険料 391 円 + 制度維持費 9 円) × 生徒数

※補償開始日が令和4年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

令和4年4月1日～令和5年4月1日

補償の範囲と支払済高額事故事例

<生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります>



補償の範囲	補償限度額	事故発生 件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1事故1億円 自己負担額1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	99%超
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人 1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物 1事故5千万円 自己負担額1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額 (千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の自転車車で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。【過去最高支払金額】
H24年度	22,460	プライベートで外出中、自転車同士の接触事故。相手方脳挫傷となる、5か月後に死亡させた。
R1年度	47,549	自転車走行中、対向の歩行者を見て右に避けたところお相手歩行者も同じ方向に避け衝突した。
R2年度	44,352	マスコミ報道事案／免責5000円／重複他社損保ジャパン社あり

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会
東京都千代田区神田佐久間町 2-1
奥田ビル 301 号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当：公務第二部 文教公務室)	TEL.03-3515-4133
共同引受保険会社	AIG損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社	TEL.03-6848-8480 TEL.03-3259-4061 TEL.03-3349-9588

AIG 損保

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会後援
AIG高校生外交官プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、
子供たちの未来。」
私たちはAIG高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG損害保険株式会社
TEL:03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の
安心

クルマの保険
住まいの保険
火災の保険

www.ms-ins.com

挑戦の
数だけ、
保険が
ある。

To Be a Good Company

東京海上日動

損保ジャパン
SOMPO Innovation for Wellbeing

Innovation
for Wellbeing

すべての人々の幸せと、
より良い社会のために。
私たちは、
笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、
イノベーションを起こし続けます。

損保ジャパンは SOMPO グループの一員です。
損害保険ジャパン株式会社
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

